

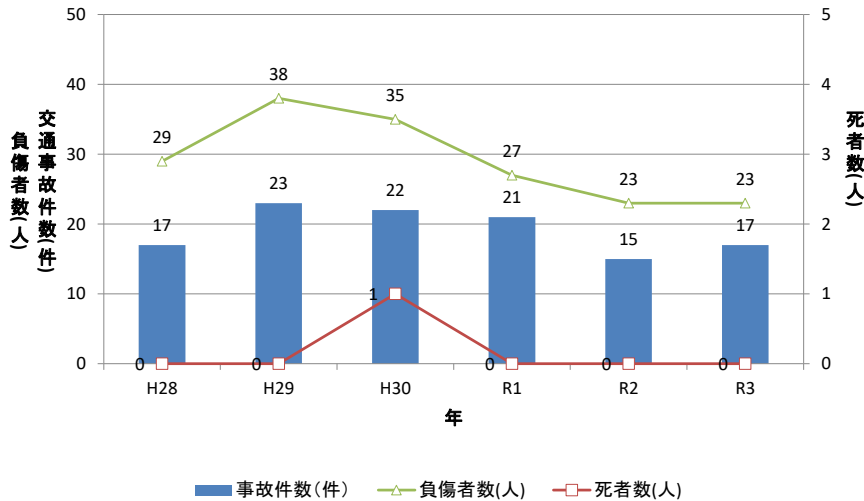
資料2

資料2. 交通事故状況の補足資料

① 子どもの交通事故

子ども（幼児、小学生、中学生）の交通事故は、毎年発生しており、令和3年では23人の子どもが事故に遭っています（図-1 参照）。また、子どもの交通事故が全事故に占める割合は近年は4～6%台で推移しています（図-2 参照）。

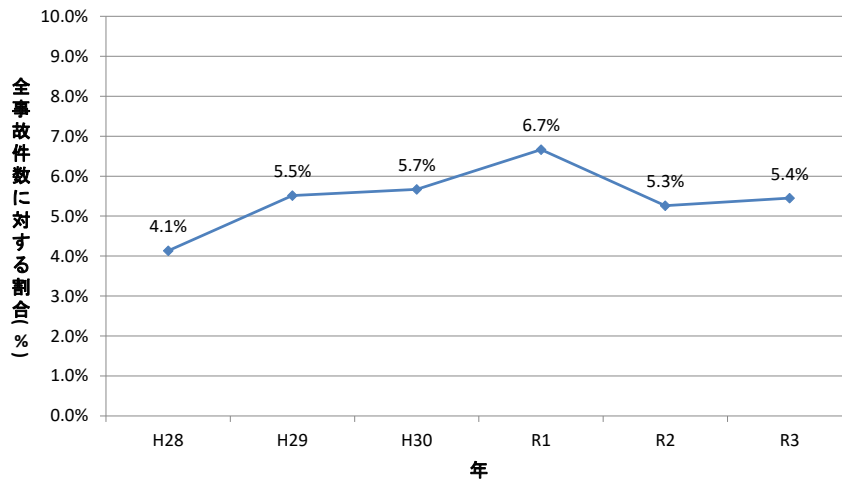
令和3年の子どもの交通事故の内訳は、幼児5人、小学生が14人、中学生が4人と、小学生が最も多くなっております（表-1 参照）。



出典：交通事故統計表(累月報) (警視庁)

区市町村別各種事故発生状況 (警視庁交通総務課)

図-1 子どもの交通事故発生状況の推移 (市内、平成28年から令和3年)¹



出典：交通事故統計表(累月報) (警視庁)

区市町村別各種事故発生状況 (警視庁交通総務課)

図-2 子どもの交通事故が全事故に占める割合の推移 (市内、平成28年から令和3年)

¹子どもの交通事故件数は1当または2当である件数です。死傷者数は1当と2当の合計で算出しております。

		子ども		
		幼児	小学生	中学生
事故件数	1当件数	0	3	0
	2当件数	2	8	4
	計	2	11	4
本人損傷 死傷者数	死者	0	0	0
	重傷者	0	0	0
	軽傷者	5	14	4
	計	5	14	4

表-1 子どもの交通事故の内訳（令和3年）²

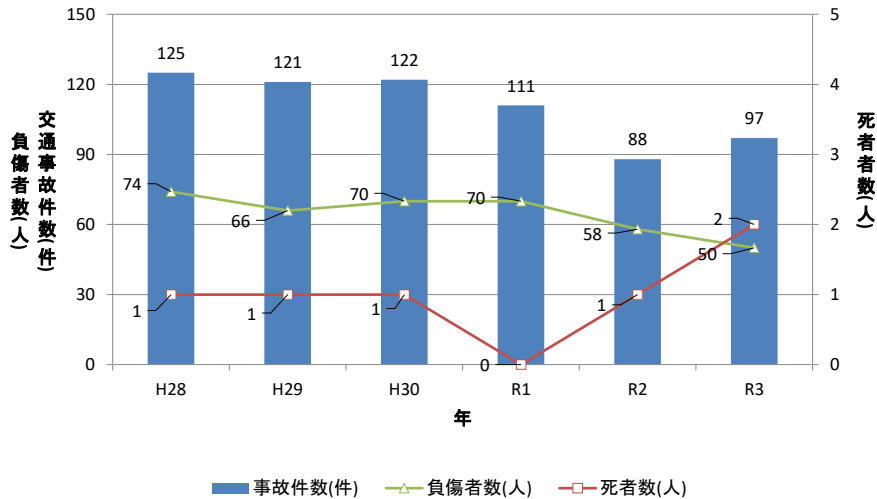
出典：交通事故統計表(累月報)（警視庁）

² 交通事故の当事者順位は「過失の軽重」により重い方を1当、軽い方を2当と定義されております。

② 高齢者の交通事故

高齢者（65歳以上）の交通事故は、交通事故件数、死傷者数ともに減少傾向にありましたが、交通事故件数は令和2年以降、死者数は令和元年以降、増加傾向にあります（図-3 参照）。また、高齢者の交通事故が全事故に占める割合は概ね30%前後で推移しています（図-4 参照）。

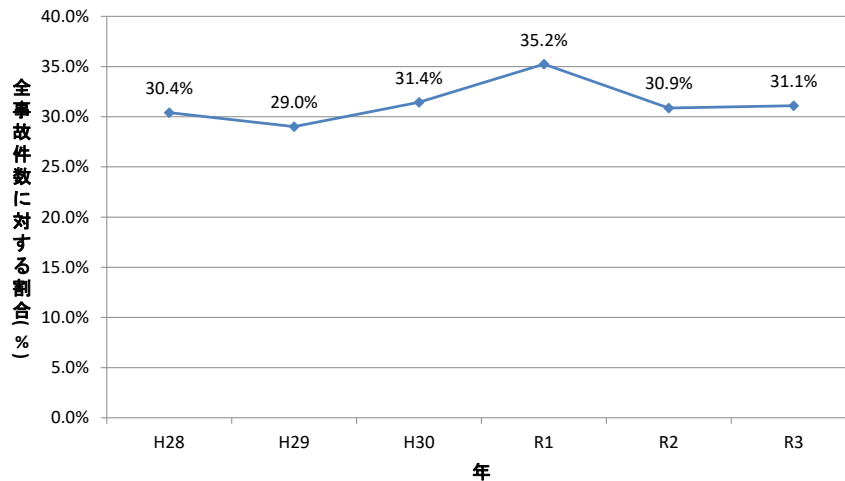
令和3年の高齢者の交通事故について、当事者を見ると、1当の件数が57件、2当の件数が48件と、1当の件数のほうが多くなっております。また、令和3年に発生した交通事故の死者のうち、4人中2人が高齢者となっております（表-2 参照）。



出典：交通事故統計表(累月報) (警視庁)

区市町村別各種事故発生状況 (警視庁交通総務課)

図-3 高齢者の交通事故発生状況の推移 (市内、平成28年から令和3年)³



出典：交通事故統計表(累月報) (警視庁)

区市町村別各種事故発生状況 (警視庁交通総務課)

図-4 高齢者の交通事故が全事故に占める割合の推移 (市内、平成28年から令和3年)

³高齢者の交通事故件数は、1当または2当である件数であり、高齢者の全事故件数の105件より1当2当の両方が高齢者である場合の件数(8件)を差し引いて算出しております。高齢者の交通事故件数は1当または2当である件数です。死傷者数は1当と2当の合計で算出しております。

		高校生～ 19歳	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60～64歳	高齢者
事故件数	1当件数	14	42	41	62	67	24	57
	2当件数	12	37	47	53	72	22	48
	計	26	79	88	115	139	46	105
本人損傷 死傷者数	死者	0	0	0	1	0	1	2
	重傷者	0	0	1	2	3	0	6
	軽傷者	18	44	54	53	73	19	44
	計	18	44	55	56	76	20	52

出典：交通事故統計表(累月報) (警視庁)

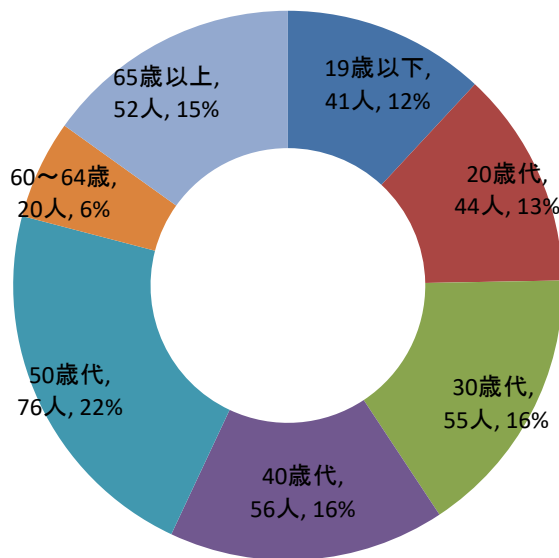
表-2 年代別の事故件数、死傷者数（令和3年）※

※表-2 の高齢者事故の事故件数の1当と2当を合計すると105件となり、図-3中の97件と一致しません。図-3では、全事故に占める高齢者の関与する割合を正確に算出するため、高齢者の全事故件数の105件より1当2当の両方が高齢者である場合の件数（8件）を差し引いて、高齢者事故を97件と算出しております。

③ 社会人の交通事故

年齢別に交通事故死傷者数をみると、50歳代が76人（22%）と最も多く、次いで、40歳代が56人（16%）、30歳代が55人（16%）となっております（図-5参照）。

過去6年間の年齢別死傷者数の内訳について、各年の最も割合の多い年代は、平成28年は30歳代、平成29年から令和2年は40歳代、令和3年は50歳代となっております（図-6参照）。



出典：交通事故統計表(累月報)（警視庁）

図-5 年齢別死傷者数（市内、令和3年）

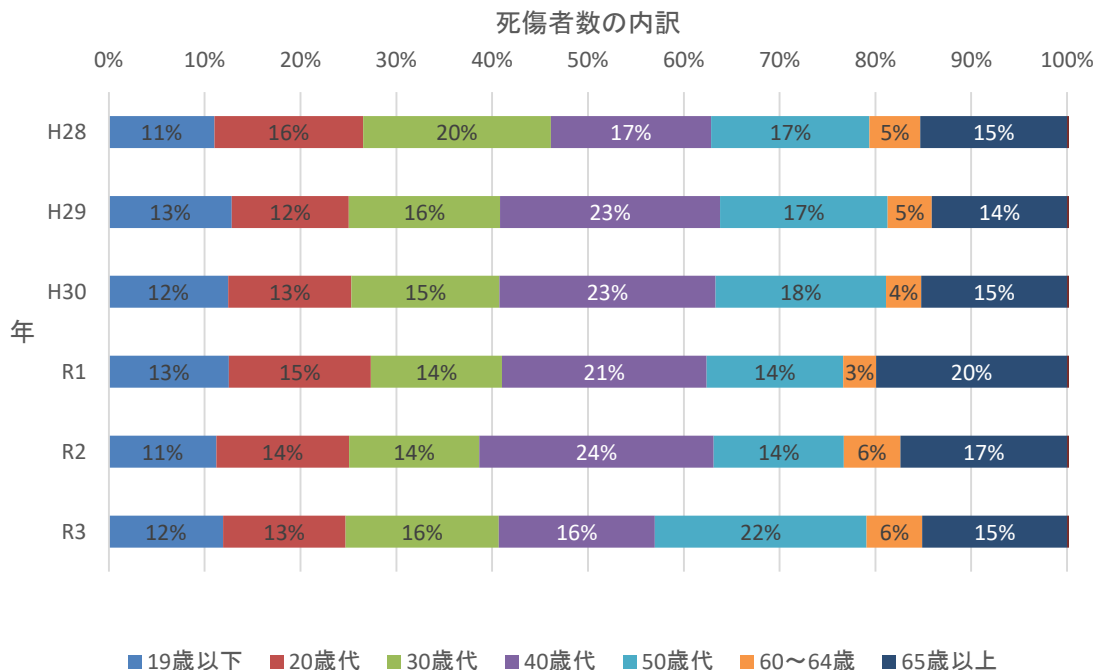
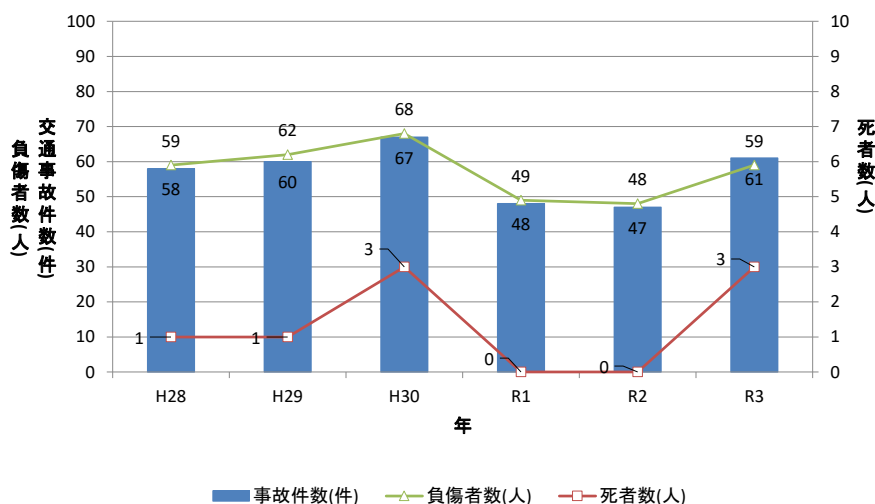


図-6 年齢別死傷者数の内訳（市内、平成28年から令和3年）

④ 歩行者の交通事故

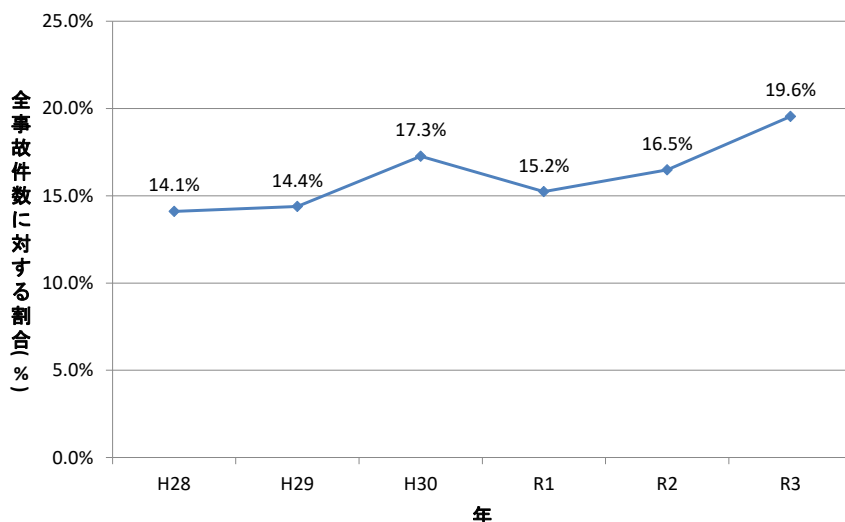
歩行者の交通事故は、交通事故件数、死傷者数ともに令和元年、2年は減少しましたが、令和3年に再び増加しています（図-7 参照）。また、歩行者の交通事故が全事故に占める割合は増加傾向にあり、令和3年には19.6%が歩行者の交通事故となっています（図-8 参照）。

令和3年の歩行者の交通事故61件のうち、歩行者側の違反なしが49件（80%）となっており、交通ルール、マナーを守っていても、事故に遭っていることがわかります。また、歩行者側の違反なしの事故で、4名の重傷者が発生しています。一方、令和3年には歩行者側の違反による死亡事故が2件（横断歩道外横断、めいてい）発生しています（表-3 参照）。



出典：交通事故統計表(累月報) (警視庁)

図-7 歩行者の交通事故発生状況の推移（市内、平成28年から令和3年）⁴



出典：交通事故統計表(累月報) (警視庁)

図-8 歩行者の交通事故が全事故に占める割合の推移（市内、平成28年から令和3年）

⁴ 歩行者の交通事故件数は1当または2当である件数です。死傷者数は1当と2当の合計で算出しております。

		信号無視	横断歩道 外横断	横断禁止 場所横断	その他 横断違反	めいてい・ 徘徊	飛び出し	その他	違反なし	計
事故件数	1当件数	1	0	1	0	1	0	1	0	4
	2当件数	1	1	0	0	0	2	4	49	57
	計	2	1	1	0	1	2	5	49	61
本人損傷 死傷者数	死者	0	1	0	0	1	0	1	0	3
	重傷者	0	0	1	0	0	0	0	4	5
	軽傷者	2	0	0	0	0	2	4	46	54
	計	2	1	1	0	1	2	5	50	62

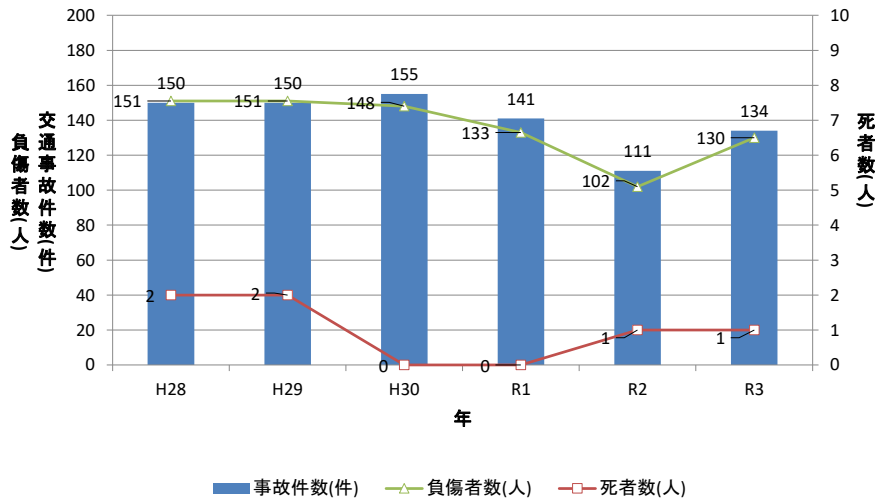
出典：交通事故統計表(累月報) (警視庁)

表-3 歩行者の違反種類別交通事故件数、死傷者数 (令和3年)

⑤ 自転車の交通事故

自転車の交通事故は、交通事故件数、死傷者数ともに減少傾向にありましたが、令和3年に再び増加しています（図-9 参照）。また、自転車の交通事故が全事故に占める割合は増加傾向にあり、令和3年には42.9%が自転車の交通事故となっています（図-10 参照）。

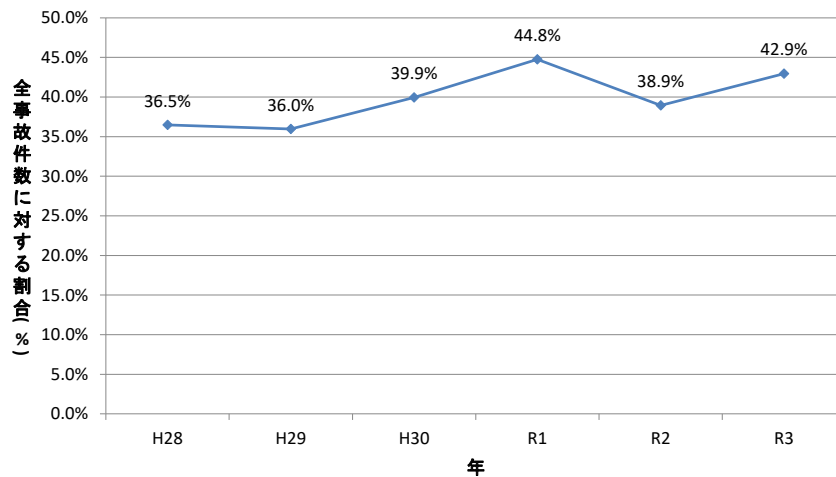
令和3年の自転車の交通事故のうち、違反内容を見ると、違反なしが84件（58%）でありますが、安全不確認が21件（14%）、交差点安全進行が14件（10%）と違反を伴う事故が発生しております。また、自転車の死亡事故を見ると、令和3年の死亡事故は自転車の一時不停止と、自転車側の違反が事故の要因となっております（表-4 参照）。



出典：交通事故統計表(累月報)（警視庁）

区市町村別各種事故発生状況（警視庁交通総務課）

図-9 自転車の交通事故発生状況の推移（市内、平成28年から令和3年）⁵



出典：交通事故統計表(累月報)（警視庁）

区市町村別各種事故発生状況（警視庁交通総務課）

図-10 自転車の交通事故が全事故に占める割合の推移（市内、平成28年から令和3年）

⁵ 自転車の交通事故件数は、1当または2当である件数であり、自転車の全事故件数の145件より1当2当の両方が自転車である場合の件数（11件）を差し引いて算出しております。死傷者数は1当と2当の合計で算出しております。

		信号無視	優先通行	交差点 安全進行	一時不停止	運転操作誤り	前方不注意	安全不確認	その他	違反なし	計
事故件数	1当件数	2	1	6	2	2	5	5	9	0	32
	2当件数	0	0	8	0	0	0	16	5	84	113
	計	2	1	14	2	2	5	21	14	84	145
本人損傷 死傷者数	死者	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1
	重傷者	0	0	2	0	0	0	0	1	2	5
	軽傷者	1	1	10	1	0	0	19	7	86	125

出典：交通事故統計表(累月報) (警視庁)

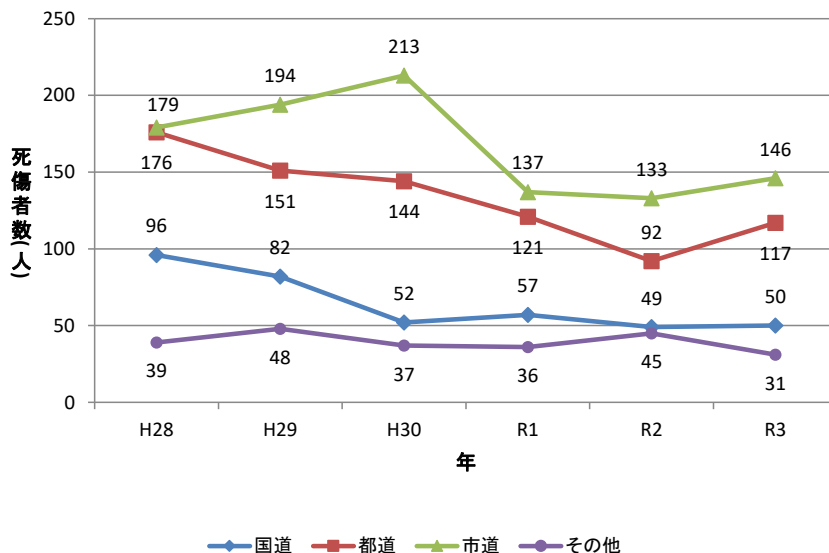
表-4 自転車の違反種別別交通事故件数、死傷者数（令和3年）※

※表-4の自転車事故の事故件数の1当と2当を合計すると145件となり、図-9中の134件と一致しません。図-9では、全事故に占める自転車の関与する割合を正確に算出するため、自転車の全事故件数の145件より1当2当の両方が自転車である場合の件数（11件）を差し引いて、自転車事故を134件と算出しております。

⑥ 道路別の交通事故

道路別に交通事故死傷者数をみると、市道で死傷者数が最も多く、ついで都道となっております（図-11 参照）。

道路形状別の交通事故は、令和3年の交通事故312件のうち、交差点が146件、交差点付近が28件となっており、多くが交差点に関連する事故となっております（表-5 参照）。詳細な交通事故発生位置をみると、市道や幹線道路の付近の交差点などにおいて交通事故が発生しています（交通事故マップ参照）。



出典：交通事故統計表(累月報) (警視庁)

図-11 道路別死傷者数 (市内、平成28年から令和3年)

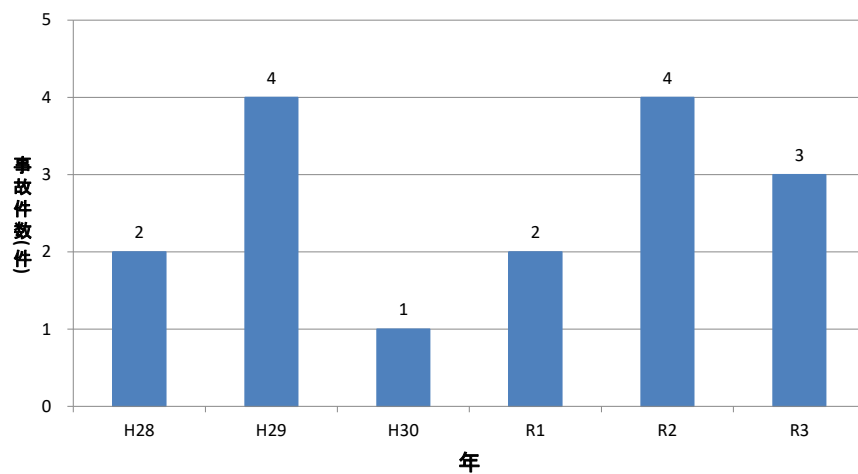
	交差点	交差点付近	単路			踏切	その他	合計
			トンネル	橋	その他			
事故件数	146	28	0	1	130	1	6	312
死者	3	0	0	0	0	1	0	4
重傷者	6	1	0	0	5	0	0	12
軽傷者	150	32	0	1	139	0	6	328

出典：交通事故統計表(累月報) (警視庁)

表-5 道路形状別交通事故、死傷者数 (令和3年)

⑦ 飲酒運転による交通事故

飲酒運転による交通事故は、平成 28 年以降は各年 1～4 件発生しており、根絶には至っておりません（図-12 参照）。



出典：区市町村別各種事故発生状況（警視庁交通総務課）

図-12 飲酒運転による交通事故発生状況の推移（市内、平成 28 年から令和 3 年）